

教員名	戒能 民江 (KAINO Tamie)
所 属	生活科学部人間生活学科生活社会科学講座
学 位	法学修士
職 名	教授
URL/E-mail	<a href="http://www.soc.ocha.ac.jp/kaino/">http://www.soc.ocha.ac.jp/kaino/</a> / <a href="mailto:kainou@cc.ocha.ac.jp">kainou@cc.ocha.ac.jp</a>

### ◆研究キーワード

ジェンダー / 女性の人権 / 法の生成 / 政策 / 女性運動

### ◆主要業績

総数 (5) 件

- ・ 編著『DV防止とこれからの被害当事者支援』ミネルヴァ書房
- ・ 「DV法制定から改正へーその意義と課題」『国際女性』19号、76－84頁
- ・ 「日本における女性の人権政策課題」『F-GENS ジャーナル』5号、81－85頁

### ◆研究内容

女性に対する暴力と法と法を主要研究テーマとするが、近年はドメスティック・バイオレンス（以下、DV）に焦点化し、DV法制度の比較研究、DV立法過程研究、DVに関する公共政策研究を中心に展開している。DV法分析および公共政策研究の成果を2006年に編著書として刊行した。さらに、人身売買、セクシュアル・ハラスメント等、女性に対する暴力と人権課題について研究を進めている。21世紀COEプログラムにおいては、拠点リーダーとして取りまとめ役を担うとともに、女性に対する暴力の被害者支援政策研究と福祉政策研究の有機的統合をめざした共同研究を行っており、2005年度は台湾調査を実施して、その成果を報告書にまとめた。

### ◆教育内容

学部では家族法及びジェンダー政策を中心に担当し、大学院では法女性論及び男女平等政策論を担当している。学生は法律学専門ではないので、法律学の基礎的知識を織り込みながら授業を行い、できるだけ事件や裁判例などを素材として現代的課題を取り上げ、リーガルマインドの養成に努めている。大学院においてはジェンダー研究の視点から、ジェンダー理論と法学理論の交差に焦点化して教育を行っている。

## ◆共同研究例

---

- ・東アジアにおける DV・女性福祉研究

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

女性に対する暴力の理論化、東アジアにおける女性の人権政策比較研究、ジェンダー法学理論研究

## ◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

---

- ・女性に対する暴力
- ・ジェンダー政策
- ・女性・子どもの人権

## ◆受験生等へのメッセージ

---

ジェンダー及び女性や子どもの人権について関心を持つ学生さんとともに学んでいきたいと思えます。